

大満足のドイツ派遣

物理工学専攻 博士課程 1年 高梨直人

この度 ALPS のコースワークの一環として、日本学術振興会若手研究者海外挑戦プログラムの予算でドイツのエアランゲンへ、4月9日から7月13日まで約3か月派遣していただきました。この海外派遣を可能にくださった全ての方にお礼を申し上げます。

滞在先では Gerd Leuchs 教授と Maria Chekhova 博士のご指導の下 SU(1,1)干渉計という従来の方式とは異なる原理を用いた高感度干渉計の構築と測定を行いました。滞在中は住民登録を始めとして何かとドイツ語の書類が必要になり大変でした。しかし幸いにも私が研究活動を行った研究所では日本人こそ見かけませんでしたが研究者は主にドイツ国外から来たため同様の経験があり、僕が助けを求めると皆親身になって応じてくれました。

引っ込み思案になってあまり言葉を話さず帰ってきってしまうと派遣の意味は薄れてしまいます。しかし、僕の場合そうした助けを求める場面が多かったことに加えて派遣先の指導教官から発表の機会を次々と与えられたこともあり、話さざるを得ない場面の連続の3か月間でした。研究面でもよい結果が得られ、非常に充実した大満足の海外派遣でした。

